



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔米国基準〕(連結)

平成23年10月31日

上場会社名 株式会社ワコールホールディングス
 コード番号 3591 URL <http://www.wacoalholdings.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚本 能交
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営企画部長 (氏名) 大谷 郁夫
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

上場取引所 東大

TEL 075-682-1028

(百万円未満四捨五入)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	87,819	2.3	8,121	32.0	8,045	50.9	4,626	66.3
23年3月期第2四半期	85,884	5.3	6,153	62.4	5,332	78.9	2,782	34.5

(注) 四半期包括利益 24年3月期第2四半期 4,717百万円 (—%) 23年3月期第2四半期 △697百万円 (—%)

	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	32.84	32.81
23年3月期第2四半期	19.70	19.68

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第2四半期	218,208	170,746	168,821	77.4	1,198.57
23年3月期	215,345	168,867	166,967	77.5	1,185.44

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	—	—	20.00	20.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	23.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	171,000	3.2	9,500	123.3	9,200	146.1	5,400	106.5	38.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無
② ①以外の変更 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	143,378,085 株	23年3月期	143,378,085 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	2,526,430 株	23年3月期	2,529,607 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	140,848,930 株	23年3月期2Q	141,247,104 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後実際の業績は、様々なリスクや不確実性、その他の要因により、本資料の予想と大きく異なる結果となる可能性があります。これらのリスクや不確実性、その他の要因には以下のものが含まれます。

- ・経済環境の悪化により国内市場及び海外市場の景気が低迷し当社の業績が悪化するリスク
- ・国内の百貨店、量販店及びその他一般小売店の業績不振や営業政策の変更によって当社が影響を受けるリスク
- ・消費者の嗜好を的確に予測しそれに応える能力及び高品質な商品を提供する能力が期待される成果を生み出さないリスク
- ・激しい市場競争により当社の販売シェアや利益率が低下するリスク
- ・SPA(製造小売)事業ネットワークの拡大が売上や利益の拡大につながらないリスク
- ・カタログ及びインターネット販売の強化による売上増加が達成できないリスク
- ・販売不振による在庫の増加が業績を悪化させるリスク
- ・コスト削減が成功せず利益が減少するリスク
- ・有能な人材確保ができず人材が不足するリスク
- ・季節の天候不順の影響により業績が悪化するリスク
- ・海外事業に関連して増加するリスク
- ・買収及びその他第三者との戦略的提携等の成否に関するリスク
- ・新市場の開拓における投資の回収に関するリスク
- ・知的財産権に関連するリスク
- ・個人情報保護や当社の機密保持に関するリスク
- ・内部統制に関連するリスク
- ・有価証券に関連するリスク
- ・自然災害、疫病の発生等に関するリスク
- ・東日本大震災が直接又は間接に与えるリスク

これらの詳細については、当社の有価証券報告書または米国証券取引委員会に提出された年次報告書(フォーム20-F)をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 5
2. サマリー情報（その他）に関する事項	P. 5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 5
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用	P. 5
(3) 会計方針の変更	P. 5
3. 四半期連結財務諸表	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書	P. 8
(3) 四半期連結包括損益計算書	P. 8
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(5) 継続企業の前提に関する注記	P. 10
(6) セグメント情報	P. 10
(7) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 11
(8) 販売の状況	P. 12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①当第2四半期の業績概況

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、電力供給の制約や原子力災害の影響、為替レートや株価の変動など、景気の下振れリスクを含んで推移したものの、東日本大震災による景気の低迷から持ち直しの動きが見られました。

衣料品業界におきましては、消費者に節電意識が浸透するなか、クールビズ関連衣料は活況となりましたが、それ以外のファッション商品の販売は依然として厳しい状況が続きました。

このような経営環境のなか、当社グループは3ヵ年中期経営計画の2年目に入り、主力事業会社である株式会社ワコールを中心に、国内事業の構造改革による収益力向上と中国を中心とする海外事業の積極的な展開による成長力強化に取り組みました。

これらの結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の連結業績は、主に株式会社ワコールや中国事業において売上が前年同期を上回ったことなどにより、全体の売上高は前年同期を上回りました。営業利益は、株式会社ワコールにおいてコスト削減や経費の圧縮に努めたことや、国内子会社の収益性が改善したことなどにより、前年同期を上回りました。

●売上高	878億19百万円	(前年同期比	2.3%増)
●営業利益	81億21百万円	(前年同期比	32.0%増)
●税引前四半期純利益	80億45百万円	(前年同期比	50.9%増)
●当社株主に帰属する四半期純利益	46億26百万円	(前年同期比	66.3%増)

②オペレーティング・セグメントの営業概況

a. ワコール事業（国内）

株式会社ワコールのワコールブランド事業本部につきましては、ワコール人間科学研究所の研究成果「からだのエイジング（加齢による体型変化）」を昨年4月に発表して以降、「自分のからだに合った下着を着用する」という啓発活動が消費者に効果的に訴求できたことにより、基幹商品であるブラジャーが春夏のキャンペーン商品を中心に総じて順調に推移しました。またバストに続き、おなか・ヒップの加齢変化の発表を受けて投入した新製品や新機能ボトムのスタイルサイエンス商品が好調に推移し、これまで低迷していたボトム商品は回復基調へと転じました。一方、季節商品の肌着については、前年を下回りましたが、ブラジャーやボトム商品が牽引したことにより、ワコールブランド事業本部全体の売上は前年同期を上回りました。

ウイングブランド事業本部につきましては、ワコールブランド同様、ブラジャーやボトム商品が堅調に推移しましたが、肌着は他社商品の影響を受けたことなどにより、前年同期を下回りました。メンズインナーはクールビズ商品が好調に推移しましたが、スタイルサイエンス商品が苦戦したこともあり、前年を下回りました。これらの結果、ウイングブランド事業本部全体の売上は、前年同期並みとなりました。

今期よりボリュームゾーンでのシェア拡大に向けて組織改編を実施した小売事業本部（旧SPA事業部）につきましては、主に直営店「AMPHI（アンフィ）」において、ブランド認知度向上に伴う入店客数の増加や客単価の上昇により、売上を伸ばしました。また、アウトレットモールで展開する「ワコールファクトリーストア」は、一部で震災による店舗の被害があったものの全体としては好調に推移し、小売事業本部全体の売上は前年同期を上回りました。

ウエルネス事業部につきましては、スポーツコンディショニングウェア「CW-X（シーダブリューエックス）」ブランドのスポーツ用タイツやブラジャーが好調に推移し、機能性を重視したビジネスパンプスも売上を伸ばしましたが、震災でテレビ通販の売上が減少したことが影響し、ウエルネス事業部全体の売上は前年同期を下回りました。

通信販売事業部につきましては、カタログ販売が順調に推移したことや、インターネット販売も伸長したことにより、全体の売上は前年同期を上回りました。

このように、主力事業であるワコールブランドやウイングブランドが堅調に推移したことに加え、小売事業が拡大したことなどにより、株式会社ワコール全体の売上は前年同期を上回りました。また、利益面につきましては、売上の増加に加え、前期より取り組みを開始した構造改革による売上利益率の改善が奏功し、営業利益は前年同期を上回りました。

●売上高	597億61百万円	(前年同期比	3.1%増)
●営業利益	61億69百万円	(前年同期比	22.6%増)

b. ワコール事業(海外)

海外事業(2011年1~6月)につきましては、米国事業は個人消費の伸びが低下傾向にある中、主力販売チャネルである百貨店でのシェア向上と商品展開の強化、さらに周辺国やインターネット販売での売上拡大に積極的に取り組みました。売上面では、値頃感のあるブラジャーや補整機能のあるボトム商品が牽引したことや、昨年8月より開始したインターネット販売が計画を上回る伸びとなったことで、現地通貨ベースでは前年同期を上回ったものの、為替変動の影響により前年同期を下回りました。一方、利益面では原価低減に伴う売上利益率の改善によって、営業利益は前年同期を上回りました。なお、当期における米ドルの為替換算レートは81円(前年同期90円)となっております。

中国事業につきましては、個人消費の伸びはやや鈍化しつつあるものの堅調に推移しており、前期に引き続き商品力の強化と内陸部を中心とした店舗展開に取り組みました。売上については、政府の不当表示規制に関する行政指導の影響で、主力販売チャネルである百貨店への入店客数が急激に落ち込んだこともあり、前年同期は上回ったものの、伸びは鈍化しました。利益面では出店拡大に伴い販管費が増加したこともあり、営業利益は前年同期を下回りました。

●売上高	111億63百万円	(前年同期比	5.6%増)
●営業利益	11億50百万円	(前年同期比	1.6%減)

c. ピーチ・ジョン事業

株式会社ピーチ・ジョン(2011年3~8月)につきましては、通信販売は主力の春号下着カタログが震災による受注停止の影響を受けましたが、販売スケジュール変更に伴うカタログ発行時期の見直しが奏功したことや、新製品のTVCMも話題となり、売上は前年同期を上回りました。国内直営店は震災の影響に加え、前年に比べて店舗数が減少したものの、品揃えの改善やキャンペーン効果により入店客数や客単価が上昇し、既存店が堅調に推移したことで売上は前年同期並みに回復しました。海外直営店は中国で展開している7店舗はやや苦戦しましたが、香港に出店している2店舗は好調に推移しました。これらの結果、ピーチ・ジョン事業全体の売上は、前年同期を上回りました。

利益面では、広告媒体の見直しなど効率化に取り組んだことや、前期に実施した事業所統廃合による人件費や固定費の削減、在庫の適正化などにより国内事業の収益改善が着実に進み、ピーチ・ジョン事業全体では黒字となりました。

●売上高	62億4百万円	(前年同期比	2.0%増)
●営業利益	1億71百万円	(前年同期は営業損失2億65百万円)	

d. その他

株式会社ルシアンにつきましては、主力のインナーウェアを展開するインナー事業部は、大手得意先との共同開発商品の展開が拡大したことなどにより、好調に推移しました。一方、アウターウェアを展開するアパレル事業部は、不採算商品の縮小などの影響もあり、前年を下回りました。これらの結果、ルシアン全体の売上は前年同期並みとなりましたが、利益面については収益性が改善されたことにより、営業利益は前年同期を上回りました。

マネキンの製造販売やレンタル、商業施設の設計や施工を行う株式会社七彩につきましては、物販が好調に推移しましたが、前期の百貨店の売場改装工事が一巡したことに加えて、震災による取引先の投資抑制やイベント中止の影響で短期のマネキンレンタルが苦戦し、売上は前年同期を下回りました。営業利益は、経費の見直しを徹底したことで前年同期を上回りました。

●売上高	106億91百万円	(前年同期比	5.3%減)
●営業利益	6億31百万円	(前年同期比	190.8%増)

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債、株主資本等の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、売掛債権の増加などにより、前連結会計年度末に比して28億63百万円増加し、2,182億8百万円となりました。

負債の部は、未払税金の増加や繰延税金負債の増加などにより、前連結会計年度末に比して9億84百万円増加し、474億62百万円となりました。

株主資本は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比して18億54百万円増加し、1,688億21百万円となりました。

以上の結果により、当第2四半期連結会計期間末における株主資本比率は、前連結会計年度末に比して0.1%減少し、77.4%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比して3億38百万円増加し、273億19百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益47億5百万円に減価償却費や繰延税金などによる調整を加えた金額に対して、資産及び負債の増減などによる調整を行った結果、46億50百万円の収入(前年同期に比し8億93百万円の収入減)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却及び償還収入などがあったものの、有価証券や有形固定資産の取得などにより、16億11百万円の支出(前年同期に比し4億92百万円の支出減)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払などにより、26億4百万円の支出(前年同期に比し10億円の支出減)となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想数値につきましては、平成23年7月29日発表時の業績予想を以下の通り修正しております。また、期末配当金につきましては、1株当たり20円を予定しておりましたが、今後の業績見通し等を総合的に勘案し、3円増配の23円とさせていただきます予定です。

(平成24年3月期 連結通期業績予想)

●売上高	1,710億00百万円	(前期比	3.2%増)
●営業利益	95億00百万円	(前期比	123.3%増)
●税引前当期純利益	92億00百万円	(前期比	146.1%増)
●当社株主に帰属する当期純利益	54億00百万円	(前期比	106.5%増)

当社グループをとりまく事業環境は、震災直後に比べて足元の消費動向には改善の動きが見られるものの、欧州債務危機による海外経済の懸念に加え、長期化する円高や株安の影響など、景気は依然として下振れリスクを抱えた厳しい状況にあります。このような経営環境の中、当社グループでは真に価値のある商品を継続的に展開することで売上規模を拡大していく考えです。

株式会社ワコールにつきましては、引き続き構造改革による国内事業の収益構造の改善を図るとともに、ワコール人間科学研究所の研究成果「からだのエイジング」をキーワードにした商品展開を推進し、主力アイテムのブラジャーをはじめ、回復基調に転じたボトム商品の活性化に繋げていきます。また、今後も成長が期待できる小売事業やウエルネス事業などについても積極的な拡大を図っていきます。さらに、当社グループ全体の総合力を発揮した得意先との協業や国内下着市場でのシェア拡大を狙います。

海外事業に関しては、米国事業は為替の影響が懸念されますが、新商品を含め商品展開をさらに強化しつつ、販売チャネルの拡充にも取り組んでいきます。中国事業は事業環境の変化に的確に対応し、引き続き成長が見込まれる内陸部を中心として、認知度を上げるための広告販促活動やコンサルティング販売の強化を図り、売上拡大を目指します。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

科 目	前連結会計年度の 連結貸借対照表 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	増減金額
(資産の部)	百万円	百万円	百万円
I. 流動資産			
現金及び現金同等物	26,981	27,319	338
定期預金	698	210	△ 488
有価証券	4,819	4,949	130
売掛債権	20,871	24,032	3,161
返品調整引当金及び貸倒引当金	△ 1,549	△ 1,675	△ 126
たな卸資産	30,956	31,842	886
繰延税金資産	5,134	4,573	△ 561
その他の流動資産	2,586	3,221	635
流動資産計	90,496	94,471	3,975
II. 有形固定資産			
土地	21,774	21,646	△ 128
建物及び構築物	60,322	59,887	△ 435
機械装置及び工具器具備品等	14,023	13,978	△ 45
建設仮勘定	93	189	96
	96,212	95,700	△ 512
減価償却累計額	△ 46,467	△ 46,766	△ 299
有形固定資産計	49,745	48,934	△ 811
III. その他の資産			
関連会社投資	14,702	15,055	353
投資	32,672	32,217	△ 455
のれん	10,367	10,367	—
その他の無形固定資産	10,325	9,927	△ 398
前払年金費用	158	736	578
繰延税金資産	879	831	△ 48
その他	6,001	5,670	△ 331
その他の資産計	75,104	74,803	△ 301
資産合計	215,345	218,208	2,863

科 目	前連結会計年度の 連結貸借対照表 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年9月30日)	増減金額
	百万円	百万円	百万円
(負債の部)			
I. 流動負債			
短期借入金	6,117	6,408	291
買掛債務			
支払手形	1,623	1,542	△ 81
買掛金	10,507	10,273	△ 234
未払金	5,700	4,781	△ 919
	<u>17,830</u>	<u>16,596</u>	<u>△ 1,234</u>
未払給料及び賞与	6,201	6,112	△ 89
未払税金	1,870	2,998	1,128
その他の流動負債	2,405	2,867	462
流動負債計	34,423	34,981	558
II. 固定負債			
退職給付引当金	2,200	2,133	△ 67
繰延税金負債	7,441	7,919	478
その他の固定負債	2,414	2,429	15
固定負債計	12,055	12,481	426
負債計	46,478	47,462	984
(資本の部)			
I. 資本金	13,260	13,260	—
II. 資本剰余金	29,401	29,423	22
III. 利益剰余金	136,946	138,755	1,809
IV. その他の包括損益累計額			
為替換算調整勘定	△ 10,344	△ 10,241	103
未実現有価証券評価益	2,596	2,361	△ 235
年金債務調整勘定	△ 2,002	△ 1,851	151
V. 自己株式	△ 2,890	△ 2,886	4
株主資本計	166,967	168,821	1,854
VI. 非支配持分	1,900	1,925	25
資本計	168,867	170,746	1,879
負債及び資本合計	215,345	218,208	2,863

(2) 四半期連結損益計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)		増減金額
	百万円	%	百万円	%	
I. 売上高	85,884	100.0	87,819	100.0	1,935
II. 営業費用					
売上原価	41,638	48.5	41,679	47.5	41
販売費及び一般管理費	38,093	44.3	38,019	43.3	△ 74
営業費用計	79,731	92.8	79,698	90.8	△ 33
営業利益	6,153	7.2	8,121	9.2	1,968
III. その他の収益・費用(△)					
受取利息	46	0.1	49	0.1	3
支払利息	△ 55	△ 0.1	△ 48	△ 0.0	7
受取配当金	361	0.4	437	0.5	76
有価証券・投資有価証券売却損益及び交換益	5	0.0	43	0.0	38
有価証券・投資有価証券評価損	△ 1,047	△ 1.2	△ 329	△ 0.4	718
その他の損益(純額)	△ 131	△ 0.2	△ 228	△ 0.2	△ 97
その他の収益・費用計	△ 821	△ 1.0	△ 76	△ 0.0	745
税引前四半期純利益	5,332	6.2	8,045	9.2	2,713
法人税等	2,906	3.4	4,006	4.6	1,100
持分法による投資損益及び非支配持分帰属損益調整前四半期純利益	2,426	2.8	4,039	4.6	1,613
持分法による投資損益	440	0.5	666	0.8	226
四半期純利益	2,866	3.3	4,705	5.4	1,839
非支配持分帰属損益	△ 84	△ 0.1	△ 79	△ 0.1	5
当社株主に帰属する四半期純利益	2,782	3.2	4,626	5.3	1,844

(3) 四半期連結包括損益計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)		増減金額
	百万円		百万円		
I. 四半期純利益	2,866		4,705		1,839
II. その他の包括損益 －税効果調整後					
為替換算調整勘定	△ 1,487		97		1,584
未実現有価証券評価損益	△ 2,244		△ 236		2,008
年金債務調整勘定	168		151		△ 17
その他の包括損益 合計	△ 3,563		12		3,575
四半期包括損益	△ 697		4,717		5,414
非支配持分帰属四半期包括損益	△ 49		△ 72		△ 23
当社株主に帰属する四半期包括損益	△ 746		4,645		5,391

(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間
	(自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 9月30日)	(自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 9月30日)
	百万円	百万円
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー		
1. 四半期純利益	2,866	4,705
2. 営業活動によるキャッシュ・フローへの調整		
(1)減価償却費	2,264	2,317
(2)返品調整引当金及び貸倒引当金	117	129
(3)繰延税金	△ 160	1,146
(4)固定資産除売却損益	△ 145	38
(5)有価証券・投資有価証券売却損益及び交換益	△ 5	△ 43
(6)有価証券・投資有価証券評価損	1,047	329
(7)持分法による投資損益(受取配当金控除後)	△ 63	△ 151
(8)資産及び負債の増減		
売掛債権の増加	△ 2,533	△ 3,151
たな卸資産の増加	△ 29	△ 886
その他の流動資産等の減少(△増加)	458	△ 630
買掛債務の増加(△減少)	264	△ 1,028
退職給付引当金の減少	△ 215	△ 388
その他の負債等の増加	1,275	1,593
(9)その他	402	670
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,543	4,650
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー		
1. 定期預金の増加額	△ 920	△ 518
2. 定期預金の減少額	17	1,006
3. 有価証券の売却及び償還収入	929	1,300
4. 有価証券の取得	△ 483	△ 1,780
5. 有形固定資産の売却収入	351	222
6. 有形固定資産の取得	△ 1,405	△ 1,496
7. 無形固定資産の取得	△ 396	△ 293
8. 投資の売却収入	32	15
9. 投資の取得	△ 276	△ 96
10. その他	48	29
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,103	△ 1,611
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
1. 短期借入金の純増減額	△ 1,114	291
2. 長期債務による調達	200	-
3. 長期債務の返済	△ 53	△ 35
4. 自己株式の増減	257	4
5. 当社株主への配当金支払額	△ 2,824	△ 2,817
6. 非支配持分への配当金支払額	△ 70	△ 47
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,604	△ 2,604
IV. 為替変動による現金及び現金同等物への影響額	△ 355	△ 97
V. 現金及び現金同等物の増減額	△ 519	338
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	24,317	26,981
VII. 現金及び現金同等物の四半期末残高	23,798	27,319

補足情報

現金支払額		
利息	56	45
法人税等	2,133	1,904
現金支出を伴わない投資活動		
株式交換による投資有価証券の取得額	-	126

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報

① オペレーティング・セグメント情報

前第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

（単位：百万円）

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	57,947	10,567	6,081	11,289	85,884	—	85,884
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,131	3,019	17	2,144	6,311	△ 6,311	—
計	59,078	13,586	6,098	13,433	92,195	△ 6,311	85,884
営業利益（△損失）	5,032	1,169	△ 265	217	6,153	—	6,153

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日～平成23年9月30日）

（単位：百万円）

	ワコール事業 (国内)	ワコール事業 (海外)	ピーチ・ジョン 事業	その他	計	消去又は 全社	連結
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	59,761	11,163	6,204	10,691	87,819	—	87,819
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,568	3,061	89	2,820	7,538	△ 7,538	—
計	61,329	14,224	6,293	13,511	95,357	△ 7,538	87,819
営業利益	6,169	1,150	171	631	8,121	—	8,121

(注) 各事業の主な製品

ワコール事業（国内）	… インナーウェア（ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー）、アウターウェア、スポーツウェア、レックニット他
ワコール事業（海外）	… インナーウェア（ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー）、アウターウェア、スポーツウェア、レックニット他
ピーチ・ジョン事業	… インナーウェア（ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー）、アウターウェア、その他繊維関連商品他
その他	… インナーウェア（ファンデーション・ランジェリー・ナイトウェア・リトルインナー）、アウターウェア、その他繊維関連商品、マッキン人形、店舗設計・施工他

② 地域別情報

前第2四半期連結累計期間(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	75,086	4,594	6,204	85,884
構成比	87.4%	5.4%	7.2%	100.0%
営業利益	4,586	677	890	6,153

当第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア	欧米	連結
外部顧客に対する売上高	76,290	5,320	6,209	87,819
構成比	86.9%	6.0%	7.1%	100.0%
営業利益	7,038	319	764	8,121

- (注) 1. 国又は地域の区分の方法は地理的近接度によっております。
 2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域
 アジア: 東アジア及び東南アジア諸国
 欧米: 北米及びヨーロッパ諸国
 3. 売上高は連結会社を所在地別に分類したものであります。

(7) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(8) 販売の状況

製品の種類		前第2四半期連結累計期間 自平成22年4月1日 至平成22年9月30日		当第2四半期連結累計期間 自平成23年4月1日 至平成23年9月30日		増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
インナーウェア	ファンデーション ・ランジェリー	百万円 61,690	% 71.8	百万円 64,243	% 73.1	百万円 2,553	% 4.1
	ナイトウェア	4,334	5.1	4,530	5.2	196	4.5
	リトルインナー	855	1.0	859	1.0	4	0.5
	計	66,879	77.9	69,632	79.3	2,753	4.1
アウターウェア ・スポーツウェア等		8,739	10.2	8,297	9.4	△ 442	△ 5.1
レッグニット		880	1.0	853	1.0	△ 27	△ 3.1
その他繊維製品 及び関連製品		3,722	4.3	3,954	4.5	232	6.2
その他		5,664	6.6	5,083	5.8	△ 581	△ 10.3
合 計		85,884	100.0	87,819	100.0	1,935	2.3